

学会企画シンポジウム 5

心理テストはどこへ行く？

——自己分析・集団診断テストの現状と課題——

企画・司会 : 澤田匡人 (学習院女子大学)

企画・司会 : 鈴木雅之 (横浜国立大学)

企画・話題提供 : 小塩真司 (早稲田大学)

無料性格診断の広がり と 課題

話題提供 : 大久保智生 (香川大学)

教育現場における集団診断テストへの誤解と活用方法

指定討論 : 村井潤一郎 (文京学院大学)

指定討論 : 荘島宏二郎 (大学入試センター)

企画趣旨 :

通俗的な心理テストやそれに類する自己分析が、科学的な根拠や適切な運用方法に基づかないまま利用される状況は後を絶たず、その広がりを懸念する声もある。特に近年は、一部の心理テストが採用人事や教育現場において、必ずしも適切とは言えない形で使用されるケースが相次いでいる。このように、「自己分析の道具」という限られた用途を超えて、「診断する」という目的だけが独り歩きすることは、人的資源を評価する局面において誤った判断を招きかねず、その影響は看過できない。そこで本シンポジウムでは、自己分析だけでなく、教育現場で使用される集団診断テストを含む心理テスト全般が、個人や社会に与える影響について改めて検討する。その際、心理テストが測定対象としている概念を適切に測定できているかという問題に留まらず、心理テストの歴史的経緯や使用実態についても議論する。自己分析や集団診断に用いられる心理テストの項目の妥当性や用途に対する誤解を整理し、そこから浮き彫りとなる課題を通じて、多角的な視点から心理テストの役割や意義を再考したい。